

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

赤十字

6

JUNE 2020 NO.961

NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS
<http://www.jrc.or.jp>

令和2年6月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第961号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可



わたしも赤十字

寄付の支援者

葛西なおみ（かさい・なおみ）さん【p.4でご紹介】

特集

油断大敵！新型コロナウイルスは、まだ「ソコ」にいます！

家族が感染…？ 在宅看護のポイント

人間を救うのは、人間だ。



赤十字新聞 編集・発行／日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL: 03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

油断大敵！新型コロナウイルスは、まだ「ソコ」にいます！

家族が感染…？ 在宅看護のポイント

新型コロナウイルスはこの先も第2波、第3波が予想されており、気の緩みは禁物です。
この特集では、もしも家族の一人が体調不良となり、感染の疑いがある場合に、家庭で行う看護のポイントを
感染管理認定看護師のアドバイスをもとにまとめました。

#1

換気をし、“感染者”との接触感染対策を！

家族に感染の可能性がある場合は、世話をする人はできる限り一人に決めておくのがよいでしょう。
感染者と「空間」「物」を共有せず、いかに濃厚接触を避けるかが重要です。

- ・感染者がいる部屋は1カ所に定め、感染者は居間や台所などに立ち入らない。
- ・水場に共有タオルを置かない。家族一人一人が自分専用のタオルを使う。
- ・感染者に食事や飲み物を渡す時は、直接手渡さない。部屋に入るときはマスク着用で、直接触れていなくてもしっかり手洗いする。
- ・家族全員でトイレの使用ルールを徹底する（下記アドバイス参照）。

※ 心臓、肺、腎臓に持病のある人、糖尿病の人、免疫の低下した人、妊婦はなるべく避けてください

【認定看護師のアドバイス】

普段から流す前にトイレのふたを閉めることを習慣化しましょう。そして、ふたを閉めたままトイレを出ること。菌やウイルスの飛散を少なくできます。また、常に換気をしておきましょう。**感染者の使用後すぐ他の人は入らない**ようにし、数十分後に**トイレ清掃をしてから使用する**ように心がけましょう。トイレ清掃は順序と方法に重要なポイントがあります。次のコーナーで紹介します。

#2

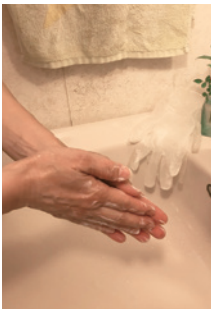
清掃について

清掃において大切なのは「換気」「マスク」「手洗い」です。
清掃前から部屋の換気をし、清掃中はマスクを着用。
清掃後にはしっかりと手洗いをすることで、清掃者自身の安全を強化します。

- ・吐しゃ物や汚物を清掃する場合はビニール手袋をはめ、手袋を外した後も、さらにしっかり手洗いを行う。
- ・感染者の部屋の清掃や寝具を取り換えるときは、**ほこりを立ててウイルスをまき散らさないように、静かに丁寧に**行う。
- ・感染者が使用した物・場所で、洗ったり消毒したりできないものは72時間以上放置。
ウイルスは72時間で不活化するといわれています。

【認定看護師のアドバイス】

ビニール手袋を外した後も、必ず手を洗ってください。ビニール手袋には微細な穴（ピンホール）が存在し、気づかないうちに手が汚染されている可能性があります。



トイレの清掃、衛生管理は最も重要です。家庭用洗剤で場所によって道具を使いわけ、汚染リスクが少ない順(①ドアノブ→②トイレトペーパー保持器→③スイッチ類→④流水レバー→⑤便座のフタ(外側、特に先端)→⑥便座のフタ(内)→⑦便座(外→内)→⑧便器の内部)に清掃しましょう。さらに下痢などの症状があれば次亜塩素酸ナトリウムを含む家庭用消毒剤やアルコールで清拭し消毒します。



#3

家庭で使用する消毒液について

消毒液は家庭にあるもので自作もできます。
注意事項を守り、安全に使いましょう。

- ・塩素系漂白剤（ハイターなど）を希釈して作る次亜塩素酸ナトリウム消毒液は日光と空気に触れる時間が長いと殺菌効果が弱まるので、少量ずつ作り短期間に使い切る。
- ・次亜塩素酸ナトリウム消毒液で拭いた後は、10分ほど放置してから水拭きする。**金属類を腐食させるため、必ず水拭きをしてください。**
- ・アルコールを使用する場合は60%以上（できれば70%以上）のものを使用する。
- ・**消毒薬を自作する場合、他の薬剤を混ぜるのは危険なのでやめましょう。**



【認定看護師のアドバイス】

スプレーボトルを使用しないこと！ 消毒液は雑巾やペーパータオルにたっぷり付けて、しっかりと絞ってから拭きます。スプレー消毒は、①噴霧により消毒液のミストを吸入する恐れがある②噴霧によりウイルスが舞い上がり、浮遊する可能性がある③汚染範囲に均等に消毒液が行き渡らない、などのデメリットがあります。



混ぜない

素手で作らない

スプレーを使わない

【0.05% 以上の次亜塩素酸ナトリウム液の作り方】
ペットボトルのキャップ1杯(5ml)の原液を、水のペットボトル(500ml)に加えると25倍希釈となり、0.05%の消毒液ができます。

※塩素系漂白剤の主成分である次亜塩素酸ナトリウムは、常温で保管されていても、ゆっくりと分解し、濃度が低下していきます。製品の生産から使用までの期間や、保管されている環境によって、次亜塩素酸ナトリウムの濃度が低下している可能性があるため、**希釈量は目安と考えてください。**



誤飲を防ぐため、ペットボトルはラベルをはがして「消毒液」と明記します。小さな子どもがいる場合はキャップの上からガムテープなどを貼るのも有効です

※次亜塩素酸ナトリウムは、非常にアルカリ性の高い製品であり、薄めた液でも皮膚を傷める恐れがあります。**手指消毒など人体には使用できません。皮膚に付いた時はすぐに水で十分洗い流してください。**

#4

下記の場所を1日1回以上、消毒する

家族が触る可能性がある場所すべてに感染リスクがあります。消毒薬で手の皮膚が荒れるため、必ず手袋をし、消毒液でぬらした布などで“一方向”に拭くことがウイルスを戻さないコツです。

- ・消毒作業は、換気をしてマスクを装着。消毒液で手の皮膚が荒れるため、ビニール手袋をして行いましょう。
手が荒れるとしっかり手を洗えなくなる、これが感染防止対策にとって一番の痛手です。



ドアノブ



電気のスイッチ



家の中の手すり



テーブル



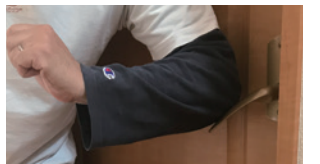
窓の取っ手



共有の家電※
(各種リモコン、タブレットPC、ゲーム機など)

【認定看護師のアドバイス】

ドアノブや扉など、肘・手の甲・手首で押すなどして開けられる場所は、なるべく手指でつかまないようにしましょう！手のひらや指は無意識に顔を触りウイルスが付着する可能性があります。顔に触れることのない肘などを使う習慣は感染リスクを減らすことができます。



※プラスチック類はアルコール消毒で白濁することがあるため、変色の不安がある場合は掃除用洗剤で清拭することを推奨します。



新型コロナウイルス感染症への取り組み

知的障害者施設のクラスターを食い止める！

「ごめんね！ すぐ終わるから
ちょっとだけ我慢してね！」

知的障害がある方の中にはPCR検査を嫌がる方もいます。不意に暴れられるとお互いに危険があるため、看護師や施設職員が声をかけ続けながら、3人がかりで入所者の体を抑え、検査を行いました。



© Atsushi Shibuya / JRCS (P4～5の TOPICS 記事内写真)

福祉施設「向陽園」(北海道紋別郡)は、知的障害、発達障害のある方が暮らす障害者支援施設です。

今年4月中旬、病氣治療を終え向陽園に戻ってきた入所者が、園外で新型コロナウイルスに感染。この方が最初の発症者となり、向陽園内に感染が広がりました。

園で実施したPCR検査の結果、最初に陽性が判明した5人のうち1人は園に常勤している看護師でした。「看護師が不在になってしまったので残った職員の不安もピークに達しました。自分たちも感染するかもしれない。しかし、食事や排せつなどの生活支援は私たち職員がやらないと。もう胸がつぶれる思いでした」。そう語るのは向陽園の工藤克哉 施設長。知的障害、発達障害のある方は一般病院への入院が難しいため、重症化していない陽性者は園内で看護する必要があります。園の職員は発熱などの症状がある入所者の隣室に泊まり込んでサポートを行いました。しかし1人目の発症から1週間が経過する頃には、職員だけで園内看護を続けるのは限界を迎えていました。

日赤さんには感謝しかないです。24時間、看護師が居てくれる！こうすれば感染を防げると指導してくれるなど、知識や技術、そして精神的にも支えてもらいました。どれだけ救われたことか…。



向陽園 工藤克哉 施設長

北海道、日赤病院の医療活動 24時間×33日間の奮闘

北見赤十字病院の荒川穰二院長は向陽園でのクラスター発生の一報を聞き、オホーツク圏にある赤十字メンバー〈置戸赤十字病院〉〈小清水赤十字病院〉にも呼び掛け、医療チームを結成しました。「2月、3月は、私たちの病院も感染者の対応に苦勞しました。それが落ち着いた矢先に、障害者施設でクラスターが発生した、と。障害のある方の入院は、その方にも多くのストレスがあり、状態を悪化させる心配があります。だから園の中でコロナを抑え込み、命を守らなくてはならない。赤十字には『全ては被災者のために』というキーワードがありますが、向陽園での医療活動は自分たちがやるべき仕事、と感じました」と荒川院長。

向陽園での活動は4月29日から5月31日まで行われました。医師・看護師が入所者一人一人に往診を行い、常に2人の看護師が2泊3日の交代で活動を継続。発熱があれば即PCR検査を実施し、薬剤師の管理のもとアビガン、オルベスコを処方。また、北見赤十字病院の電子カルテに入所者約50人のデータを登録し、新たな感染発生に備えています。



北見赤十字病院 荒川穰二 院長

向陽園の方々は最初の1週間をよく乗り切りました。感染症の知識も十分にあって、対策も工夫されている。そして入所者との信頼関係も厚い。この施設での封じ込めは成功すると確信して診療に臨みました。



入所者の部屋を回って往診する日赤の医療チーム



向陽園に交代で泊まり込み、支援を続けた看護師たち

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にをご紹介します。



寄付の支援者

葛西なおみ (かさい・なおみ) さん
東京都江東区／57歳／東京都非常勤職員

仲間とつながり、防災に取り組む。赤十字さんと共に

2015年、実家のある茨城県常総市では台風で鬼怒川の堤防が決壊し、水が来たと慌てる母の留守電を最後に高齢の両親と連絡が途絶えました。私は救助要請の電話を掛け続け、ようやくつながりましたが、一帯が水びたして番地を言われても救助が難しいと言われました。翌朝、不安な気持ちで常総市へ。実家のある地域は1メートルを超える浸水被害でした。初日は実家にたどり着けず、警察署で一晩お世話になり、救助を行う方々が夜通し活動する姿を見て、本当にありがたいと感じました。その翌日、両親とは無事に再会。母は認知症の父と共に救助を待ち続け、恐怖を感じたそうです。その後、この経験を話す機会をいただき防災セミナーなどで伝えています。

今住んでいる地域のコミュニティでは良いつながりが築けていますが、防災の面では不安も多いです。そんな中、昨年の暮れに、この地域で防災に取り組みたい仲間10人とNPOを設立しました。活動を始めた矢先にコロナで活動自粛。このインタビューを受けている集会所は仲間と会議を行っていた場所です。コロナが収束したら、またここに集まって元気に活動を再開したいと思っています。

日赤東京都支部の防災への取り組みは防災講習を通して知りました。都支部さんは私に災害の経験を話す場を与えてくださったり、何よりも、常総市の水害でも救護に駆けつけてくれました。感謝の気持ちをこめて、日赤への寄付を長く続けたいと思っています。

寄付するあなたも 赤十字です

日本赤十字社へのご寄付の方法

クレジットカードで寄付



Web サイトからの登録により、クレジットカードでご寄付いただけます。ご寄付の方法は、毎年・毎月・今回のみからお選びいただけます。

身近な窓口から寄付



- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口

詳しくはこちら→



日本赤十字社 寄付

検索

donate.jrc.or.jp/lp/

3.11 あれから 10年を生きて

第3回

東日本大震災の発生から2021年3月で10年。来年の3月号まで「3.11」から人生を変えた人々の物語を毎月連載します。

私はこれからも、たたかう「被災者」です

宮城県石巻市渡波町 わたのはちよう 山田葉子さん

「何かあったら、あなたの責任だからな！」

男性は捨てぜりふを残して立ち去りました。避難所生活も数日たつと、持病の薬を持っていない方や、体調の悪い家族がいる方々の不安とストレスは高まる一方でした。

2000 人もの被災者が暮らす石巻市立渡波小学校の避難所では、被災者でもある3人の看護師が奮闘していました。在宅避難の方々も次々とやってきて、あらゆる相談事を看護師に持ち掛けます。そんな状況を見かねた私は、彼女たちが本来の仕事ができるようにと、防波堤の役を買って出ました。看護師と一緒に相談者の話を聞き、看護師が「今は対処できない」とサインを示したら、私が話し相手を引き受けます。

看護師の1人、石巻日赤(石巻赤十字病院)の看護師長、津田佐都子さんと私は息の合った連携ができました。津田さんが診て「緊急搬送が必要」と判断すると、私が救急車を呼びに走ります。電話回線は津波で全滅、でも町のどこかに無線機を持っている消防や自衛隊の方がいて、「看護師からの要請です」と伝えると協力してくれました。街中が瓦礫だらけ、救急車が入れないルートがあっても、家業の寿司屋の出前で培った土地勘が役に立ちましたね。津田さんは勤め先の石巻日赤に救急患者を送り出す際に、司令塔である石井 正 医師への手紙を託していました。発災から8日目、ようやく石井先生が日赤救護班を引き連れて渡波小に現れました。よく覚えていないのですが、周りの人の話では、私は号泣しながら到着した石井先生に文句を言っていたそうです。津田さんたちと避難所を守りながらストレスがたまっていたみたいです。

救護班が来てからは、避難所の運営業務に専念しました。朝6時から夜10時まで、住人のさまざまな不満、意見を調整する日々。病院勤務

に戻った津田さんは、私たちの様子を見にときどき立ち寄ってくれて、顔を見るなり「山田さん、休息とってね。後から反動が出るよ…」と心配して声を掛けてくれました。

2018年7月。記録的な豪雨によって237人の方が亡くなられた西日本豪雨災害。私は2012年から看護師のボランティア活動を支援するNPOに勤務しており、その職場で被災地の看護師から送られた写真を見ました。その時、唐突にソレはやって来ました。フラッシュバック。川の氾濫で押し流された町、学校の周囲に流れ込んだ瓦礫の山。「あの日」に見たのとそっくりな景色。私は耐えられない感情の波に襲われ、同時にむなしさで何もする気が起きなくなり……体調が戻るまで数カ月かかりました。

そんな状況から前を向くきっかけになったのは、震災の時の避難所体験を話す「伝承活動」です。いつか来る災害に備えて、避難所の環境改善や防災を考え伝えること。私は気が付きました。今もお私は「被災者」だと。だから、災害発生時の苦しみ軽減される活動が救い。苦しい気持ちは今も続いているけれど、未来の災害から人々を守るために、やれることをやっていく。それが今の私です。



2011年5月、渡波小の避難所で、運営支援に来てくれた北海道庁、鳥取県庁の方々と(前列右側)



全国各地
あなたの生活のすぐそばで
日本赤十字社の活動は
行われています。

東京都

コロナ禍、最前線の病院で 日赤支部が備蓄する 災害救護の資機材をフル活用

武蔵野赤十字病院では、日赤東京都支部と連携し、災害救護用の資機材も最大限に活用して新型コロナウイルス感染症患者の受け入れを行っています。同院では陽性患者専用のエリアを設けるほか、専用のトイレも必要としており、都支部が救護所に設置するパーテーションや避難所用のラップ式トイレなどを有効利用。災害救護の備えが、最前線で戦う病院の助けになっています。



ラップ式トイレはウイルスが付着した排泄物の処理に最適(右)
※ラップ式トイレは災害協定を結ぶNPO法人災害医療ACT研究所の提供

神奈川県

少しでも助けになれば… 真心をこめて作る 医療者用の防護エプロン

緊急事態宣言が発令され、赤十字救急法の講習や、ほとんどのボランティア活動が自粛されました。しかし神奈川県では県内赤十字病院から「感染防止の個人防護具(エプロン)が底をつきそう」とSOSが。そこで日赤神奈川県支部は自宅で行える活動として、県内全奉仕団に看護師らが使用する使い捨てエプロンの代用品作製を依頼。エプロンは県支部を通じて病院に届けられます。



自宅での作製の様子。神奈川県支部では6万5000着を作製予定

愛知県

おうち時間を楽しもう！ 青年奉仕団が考えた 子どものためのプロジェクト

日赤愛知県支部の公式HPで、家で過ごす子どもたちに向けた「にっせきおうちキッズプロジェクト」がスタートしました。県内にある5つの青年赤十字奉仕団が協力し合い、折り紙や工作などを動画や画像で紹介する内容。教育系の学部で学ぶ団員も多く、赤十字病院の小児病棟で工作教室を行ってきた経験も生かして、子どもたちのストレスを緩和する遊びを提供します。



「自分たちだからこそ、できることがある」と青年奉仕団

大阪府

せんせい 教師は百戦錬磨の看護師！ 新型コロナウイルスの軽症者の 健康管理に從事

4月14日、大阪府では感染軽症者のホテル療養がスタートしました。開始から4月25日までの12日間、大阪赤十字看護専門学校の教師6人が交代で各ホテルに宿直し、看護師として健康管理に從事。参加した中西敦子教諭は「2週間隔離されるつらいお気持ちを聞くなど、こころのケアも仕事でした」と語りました。なお、この活動は大阪府からの救護員派遣要請に基づいて実施されました。



活動終了後は業務を看護協会に引き継ぎ、学校に戻りました
※防護服着用は対象者と濃厚接触する場合のみ。通常は着用なし

福岡

「母さん、元気だった？」 LINEを使った家族面会で 2カ月ぶりの“再会”

感染防止のため、多くの高齢者福祉施設で家族面会が中止されています。そんな中、日赤の特別養護老人ホーム「やすらぎの郷」では5月からLINE面会を開始。入居者の石黒房枝さんはタブレットPCの画面越しに2カ月ぶりに家族と会い、山梨の長男、熊本の長女、県内の次女、3人と同時に会話を楽しんだり、LINE上で写真を送り合うなど幸せな時間を過ごしました。



耳が遠くなった石黒さん。電話と違い、家族の顔が見れて感激

全国

全国の医療従事者をドリカムの人気曲「何度でも」で応援 日赤のユースボランティア、看護学生たちも自撮り動画で参加

日赤はユニバーサル ミュージックと協力して「#最前線にエールを何度でも」プロジェクトをSNSで展開しています。このプロジェクトは、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて危機的状況にある医療現場の最前線に立つ全国の医療従事者を応援するもので、DREAMS COME TRUEの楽曲「何度でも」をメッセージソングとしています。赤十字ユースボランティアは6県1

府(福島、神奈川、愛知、大阪、広島、熊本、大分)から参加し、国際赤十字の医療者へ拍手を送るキャンペーンとあわせた動画をYouTubeで公開。医療の未来を担う長野赤十字看護専門学校の学生たちも「休校中でも、自分たちのできることを」と、感謝と応援の気持ちを込めたメッセージ動画を作製し、日赤長野県支部のホームページや長野県内の赤十字病院などで公開しています。



(写真左から)プロジェクトのアイコン、ドリカムのキャラクター、「自分たちができる少しのことが、大切な人を救う力になる」と看護学生

長野県

どんな時も、人を想う行動を 血液を待つ人のために 私たちにできること

4月28日、長野中央郵便局で献血のご協力をいただきました。外出自粛で献血ルームを訪れる人が減少し、献血イベントも相次いで中止。このままでは血液の供給が不足すると同郵便局に相談したところ、献血実施を快諾。協力者の一人は「社会のために、自分は外出を自粛することしかできないと思っていました。でも、他にも協力できることがあったんですね」と語りました。



「血液を待つ人のために」と、協力の打診をした数日後に献血実施

全国

「新型コロナウイルスの3つの顔をろう！」 全国の教育現場で活用される日赤の啓発教材

日赤のホームページでは新型コロナウイルスがもたらす病気・不安・差別という“3つの顔”をわかりやすく解説した啓発読本「新型コロナウイルスの3つの顔をろう！」をPDFファイルで配布しています。これまで多くの市町村や企業から啓発のご協力をいただきましたが、このムーブメントは拡大を続け、文部科学省の保健教育指導資料でも取り上げられるなど、教材としての活用が全国の学校で広がっています。長野県では教育委員会を通じて県内全ての学校にデータを提供し、さらに山口県では学校から「保健だより」で家庭にも配布。富山県では入学式で配布。また、神奈川県JRC加盟校は世界史の授業に

この教材を取り入れることで、かつてのベスト流行などと重ねながら、社会的な混乱の悪影響を生徒たちに伝えようと指導準備をすすめています。



教材のスライドを色鉛筆で着色してわかりやすく掲示する事例も

「赤十字を応援！」プレゼント A 中村アンさん 女優

サマーストール(23区)

5
名さまに



素材:綿80%、絹20%

●今回は、中村アンさんがCM出演するオンワード樫山からのプレゼントです。ファッション通販サイト『オンワード・クロゼット』では売り上げの一部が日本赤十字社に寄付され(新型コロナウイルス感染症対策を含む赤十字諸活動全般)に活用されるキャンペーンも実施中です。

オンワード・クロゼット <https://crosset.onward.co.jp/>

StayStylish 今、この時間を楽しもう!!!

「外出自粛生活が続く中、みなさんの活力に少しでもなれたらいいなと思い、オンワード樫山の新CM『今、私たちは、試着室の中にいる』では自宅のクロゼットで動画を自撮りし、参加しました。近い将来、この状況を振り返った時に、大変だったけど有意義な時間だったなと思うように毎日を過ごせたらいいなと思っています。みなさんもうかが前向きに、自分の好きなお洋服を着て今できることを楽しんでほしいと思います」

なかむら・あん©1987年生まれ、東京都出身。映画・ドラマ、テレビCMなどで活躍中。現在、ドラマ「SUITS/スーツ2」(フジテレビ系列)に出演中。

「赤十字を応援！」プレゼント B パートナー企業紹介 vol.3 久光製薬株式会社

日本全体が苦境に立たされている今、社会の痛みに寄り添いたい！



2016年には96台のAED練習機が久光製薬から寄贈され、赤十字救急法の講習で活用されている

1847年創業の久光製薬は、「世界の人々のQOL(クオリティ・オブ・ライフ：生活の質)向上を目指す」という経営理念を掲げ、「貼付剤による治療文化を世界へ」広めることを企業使命と定め、広く事業を展開しています。同社は、文化・芸術を通じたQOL向上を目的として各種文化イベントを開催したり、社会課題解決に取り組む団体を人的・資金面で支援するなど、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

日赤の創始者・佐野常民の出身地である佐賀県で創業されたという縁もあり、久光製薬の日赤への支援は半世紀にわたります。さらに、今年1月には、日赤と災害時の支援協定も締結し、災害発生時に日赤職員・赤十字ボランティア・被災者のニーズに応じて同社の物資が迅速に提供されることとなりました。赤十字救急法の社内講習も毎年開催され、「苦しんでいる人を救う」赤十字の活動にともに取り組む、大切な赤十字パートナーです。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 6月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 メール / koho@jrc.or.jp (件名「赤十字NEWS 6月号プレゼント係」)
6月30日(火)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

Hisamitsu.

フェイス メディカルサポーター (腰用) MorLサイズ

各5名さまに

独自のガード構造で不安な腰をしっかりと守るサポーターです。ご希望のサイズでお申し込みください。

サイズ	腰回り・へそ下
M	66～81cm
L	80～95cm

※写真はイメージです。

上記プレゼントA希望者は、右記WEBサイトに応募ください。



インターネット
アクセス

日本赤十字社 寄付 検索
www.jrc.or.jp/contribute/

こちらから
応募
できます



上記プレゼントB希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 6月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥6月号に関するご意見・ご感想

こちらから
も応募
できます



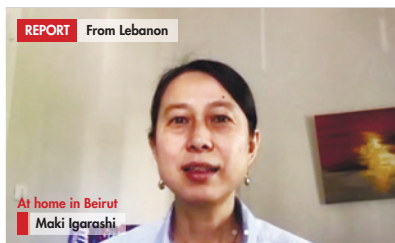
WORLD NEWS

コロナ最前線、中東リポート



中東を襲った“コロナ禍”

今も全世界に影響を及ぼし続けている新型コロナウイルス(COVID-19)。レバノンに駐在する日赤職員がその最前線をリポートします。



リポーター：
日赤国際部
中東地域代表
五十嵐真希

感染の不安と闘いながら
救急搬送を行う
赤十字・赤新月社ボランティア

世界中で流行が続く新型コロナウイルス感染症。各地の最前線では、現地の赤十字・赤新月社ボランティアが中心となり、さまざまな支援を展開しています。

中東のレバノンでは、日赤国際部中東地域代表の五十嵐真希が国際赤十字・赤新月社連盟(以下、連盟)の中東・北アフリカ地域保健コーディネーターも兼任し、ボランティアへの教育や活動サポートを行っています。五十嵐は現地の様子を次のように語りました。「レバノンでは感染拡大の前から経済危機の懸念が広がっており、反政府デモなどが続く不

安定な情勢でした。そこへ新型コロナウイルスの影響が重なり、経済悪化・治安悪化・感染拡大という3つの困難がレバノンを直撃しています。私の自宅近くでもデモへの発砲音が聞こえるなど、街全体に緊迫した雰囲気があります。そんな中、連盟では防護服や救急車などの物資提供をしていますが、実際の救急搬送を担うのは医療関係者ではなく、現地のボランティアです。ボランティアたちのプロフェッショナルな意識には敬服します。感染の恐怖と闘いながらも献身的に患者の搬送にあたる、そんなボランティアを守るため、感染防止の正しい知識を提供し、トレーニングを行うのも、赤十字の重要な仕事です」

シリア避難民への支援など
中東地域全体の課題も

レバノンだけでなく中東地域全体を見渡しても、課題は山積みの状況です。五十嵐は中東の国々の現状について「イエメン、イラク、シリアなど保健医療システムが崩壊している国もある」と指摘します。「中でもシリアは



レバノン赤十字社のボランティア。防護服のフル装備は着用で2時間を要する。これだけの装備をし、炎天下でも1日300～500件の救急搬送を行う

2011年から続く紛争によって国内に600万人以上の避難民がおり、苦しい状況に陥っています。ただでさえ厳しい生活を送る彼らにも新型コロナウイルスの脅威が降りかかっていますが、今はシリア国内の避難民への支援を十分に届けられていないのが現状です」と、さらなるサポートの必要性を語りました。

予断を許さない新型コロナウイルスの猛威。今もなお多くの国の人々が困難に直面しています。世界各地の赤十字・赤新月社は「連帯」の心を忘れることなく、今後も新型コロナウイルスと闘い続けます。



感染防止のための啓発チラシを配布するボランティア(イラク赤新月社)

数字で見えた!

世界で生かされる皆さまのご支援

世界中の災害や紛争から、人々の命と健康を守る日赤の国際活動。皆さまの寄付がどのように世界で役立てられているのかを、数字でわかりやすくお伝えします。

シリア国内避難民支援において医療サービスを受けた人数

8万
6000人



© Syrian Arab Red Crescent

中東シリアでは2011年に勃発した紛争をきっかけに情勢が混乱。1200万人に及ぶ難民・避難民は今も命の危機に直面しており、日赤による支援は10年目を迎えています。

シリアは元々、豊かな文化と歴史を併せ持ち、医療を含む生活水準も比較的高い国でした。しかし、紛争で人々の生活や医療システムは崩壊。抗生物質や予防接種など、紛争前には当たり前だった医療を受けられなくなった結果、シリアの人々の平均寿命は2010年から2015年の間に70.5歳から55.4歳にまで落ち込んでしまいました。

日赤は皆様の寄付などをもとにシリア国内の避難民に向けて医療サービスを提供し、2018-19年を通して8万6000人の人々に利用されています。紛争によって失われた“当り前の医療”を少しでも多くの人びとに届けるべく、日赤はこれからもシリアへの支援を続けて参ります。